

島根県指定文化財の指定（３）

種別：天然記念物
名称・員数：後山都茂屋のヤブツバキ 1株
所在地：益田市美都町丸茂33番地
所有者：花本 茂

１．概要

「後山都茂屋のヤブツバキ」は、益田市美都町丸茂に所在するヤブツバキの巨木である。ヤブツバキ *Camellia japonica* は、ツバキ科ツバキ属の常緑広葉樹である。ツバキ類の原種としては、最も一般的にみられる種であり、日本の北海道を除く各地に分布している。植物生態学上、日本の照葉樹林を標徴する木でもある。また、ツバキは、『古事記』『日本書紀』にも、その名が記されるなど、古来から関心がもたれ、日本人の暮らしとも深く結びついている。

後山都茂屋のヤブツバキは、美都町のほぼ中央、丸茂地区後山の標高290mの丘陵東側斜面に位置する。生育地までは、国道191号から分かれた町道が通じている。この町道を山間に4kmほど入ったところに、ヤブツバキは大きな樹冠を広げている。これまで、地元でもあまり知られていなかったが、国内有数の巨木として、近年、ツバキ愛好家の間で注目されることとなった。

ヤブツバキは、幹周り3.65m、樹高は約8mである。樹幹は地上30cmのあたりから6本に分岐し、そこから四方に枝葉を広げ樹冠を構成している。支幹は基部で周り1mほどのものが1本、1.5mほどのものが3本、2mほどのものが2本ある。枝張りは、東西約11.0m、南北約15.8mにも及ぶ。樹齢は数百年あるいは千年以上ともいわれるが定かではない。樹勢は旺盛で、枝振りも良く、葉は良く茂っている。開花期には淡紅色の小さな花が巨樹を飾り美しい。

かつて、このヤブツバキのある後山地区には、6戸の民家があり集落をなしていた。ヤブツバキは地区の象徴として人々に親しまれてきた。しかし、昭和38（1963）年の豪雪の後、住民は山を降り、集落は廃絶した。その後、ヤブツバキは、所有者の花本氏（屋号：都茂屋）の手で大切に守られてきた。現在では、廃絶してしまった当該地区を偲ぶ縁ともなっている。旧美都町教育委員会においても、平成16年2月10日付けで美都町指定文化財に指定し、保護措置を講じているところである。

なお、谷を挟んだ向かいの丘陵西斜面にも2株のヤブツバキが存在する。いずれも、指定対象の木には及ばないが、1株は胸高周囲1.35m、もう1株は同1.75mの規模を有している。

２．提案の理由

このヤブツバキは、全国でも有数の巨樹であり学術上価値が高く、天然記念物として指定し保護すべき価値があるものとする。

3 . 調査者

島根県文化財保護審議会委員 枚村喜則

(参考資料)

「 全国ツバキの巨木一覧 」

幹周 3 m 以上

都道府県	所在地	名称	幹周 (m)	樹高 (m)	指定状況
岩手県	大船渡市	大船渡の三面椿	8 . 0	1 0 . 0	県指定
石川県	氷見市老谷	老谷の大ツバキ	3 . 0	6 . 6	県指定
京都府	与謝郡加悦町	滝のツバキ	3 . 2	9 . 7	県指定
島根県	美濃郡美都町	後山都茂屋のヤブツバキ	3 . 6 5	7 . 0	町指定